

あまてらすおほみかみのみこととちて、とよあはらのちあまきのながいおほあまのみすほのくには

あがな

天照大御神之命以、豊葦原之千秋長五百秋之水穗國者、我御子、

あはらのなかくにつかわせあめのほひのみ ひさしくかえりこもせず また いずれのみみわかつてばえけん

正勝吾勝勝速日、天忍穗耳命之所知國と、言因賜而、天降也。於是、

所遣葦原中國之 天善比神、久不復奏。亦、使何神之吉。

爾思金神及八百萬神、議白之。

爾思金神答曰。天津國玉神之子天若日子を可遣。

天忍穗耳命、於天浮橋多多志而詔之。豊葦原之千秋長五百秋之水穗國者

故爾 以天之麻迦古弓天之波波矢賜天若日子而遣 ぎ。

伊多久佐夜藝豆有祗理と告而、更還上、請于天照大神。

於是、天若日子、降到其國 即 大國主神之女 下照比賣を娶とし、亦、

爾高御産巢日神、天照大御神之命以、於天安河之河原、神集八百萬神

慮獲其國 至于八年、不復奏 ぎ。

集而、思金神に令思而詔わへ。

故爾、天照大御神、高御産巢日神、亦、問諸神等 たまわへ。

此葦原中國者、我御子之所知國と、言依所賜之國也。

天若日子、久不復奏。又遣曷神以 問天若日子之淹留所由。

故於此國、道速振荒振國神等之多在と以爲、是使何神而 將言趣。

於是諸神及思金神答曰。可遣雉名鳴女時 詔之わへ。

爾思金神及八百萬神 議白之。

汝行 問天若日子状者、汝所以使葦原中國者

天善比神、是可遣。

言趣和其國之荒振神等之者也、何至于八年不復奏 と、問えと詔之わへ。

故遣天善比神者 乃 媚附大國主神 至于二年不復奏。

故爾 鳴女、自天降到 居天若日子之門湯津楓上而、委曲 如天神之詔命

是以 高御産巢日神、天照大御神亦、問諸神等 たまわへ。

言ぎ。爾天佐具賣、聞此鳥言而、語天若日子言。

此鳥者其鳴音甚惡、故可射殺と云進れば、即 天若日子、

持天神所賜天之波士弓天之加久矢、射殺其雉つ。爾其矢自雉胸通而、

逆射上、坐天安河之河原、天照大御神、高木神之御所に逮き。

是高木神者、高御産巢日神之别名なり。

故高木神、取其矢見者、血箸其矢羽き。於是高木神、

此矢者所賜天若日子之矢と告之て、即示諸神等詔者

或天若日子不誤命、爲射惡神之矢之至者、不中天若日子。或有邪心者、

天若日子於此矢麻賀禮云而、取其矢、自其矢穴衝返下者、

中天若日子寢朝床之高胸坂、以死き。亦其雉不還。

故於今諺曰雉之頓使本是也。

故、天若日子之妻、下照比賣之哭聲、與風響到天

天若日子之父、天津国玉神、及其妻子聞而、降來哭悲、乃於其處作喪屋而、

河雁爲岐佐理持、鷺爲掃持、翠鳥爲御食人、雀爲確女、雉爲哭女、

如此行定而、日八日夜八夜遊也き。

此時阿遲志貴高日子根神到而、弔天若日子之喪時に、

自天降到天若日子之父、亦其妻皆哭云、我子者不死有祇理。

我君者不死坐祇理と云て、取懸手足而、哭悲也き。其過所以者、

此二柱神之容姿甚能相似。故是以過也。於是阿遲志貴高日子根神、

大怒曰。我者愛友故弔來耳。何吾比穢死人と云而、

拔所御佩之十掬劔、切伏其喪屋、以足蹶離遣き。

此者在美濃國藍見河之河上者也。其持所大刀名謂大量。

亦名謂神度劔。故阿治志貴高日子根神者、忿而飛去之時に、

其伊呂妹高比賣命、思顯其御名故歌曰。

阿米那流夜。淤登多那婆多能。宇那賀世流。多麻能美須麻流。美須麻流瀧。

あめたまはや みたて きたわたらす あしき たかひねの かみぞや

阿那陀麻波夜。美多邇。布多和多良須。阿治志貴。多迦比古泥能。迦微會也。

あめのおほはりのかみにとうとて かしてしかなまらんと しかれせいのみちにば あなたらひみちのかみぞかむすこ

問天尾羽張神之時に、恐之仕奉。然於此道者、僕子建御雷神可遣と

もうして すなわたまらり

答白、乃貢進 ぎ。

かれあめのとりかねのかみ たひみかちちのかみだまてしわか

爾天鳥船神 を副建御雷神 而遣ぎ。

いそむのくたごのほほまてくたごい

【歌部分の意味】

天(あめ)なるや、弟棚機(おとたなはた)の、項(うな)がせる、玉の御統(みすま

る)、御統(みすま)るに、穴玉(あなだま)はや、み谷(たに)、二渡(ふたわた)らす、

阿治志貴(あじしき)、高日子根(たかひこね)の、神ぞ。

あまてらすおおみかみたかあまのなにとてうのかむせり なかうし たはら

天照大御神高木神之命以問使之。汝之宇志波祢流葦原中國者、

我御子之所知國と言依賜 り。故汝心奈何。

いそむのくたごい あはそめちち あな)き せうていおののみ いたひすまあ たりのおんひすなかりした

爾答白之。僕者不得白。我子八重言代主神、是可白然、爲鳥遊取魚而、

往御大之前、未還來。

かれいただあめのかみかむらわいて ちや せうていおののかみかむらわいて

故爾遣天鳥船神、徵來八重事代主神而、問賜之時に、

語其父大神言。恐之。此國者、立奉天神之御子。

すなわそのおおみかむらわいて かな へんていおの)へんていおの)かむらわいて

即蹈傾其船而、天逆手矣、於青柴垣打成而、隱也ましき。

あてしなはえあかて かな ちや せうていおの)かむらわいて

他神不得行。故別遣天迦久神可問 ともうしき。故爾使天迦久神、

名伊都之尾羽張神、是可遣。若亦非此神者、其神之子、建御雷之男神、

此應遣。且其天尾羽張神者、逆塞上天安河之水而、塞道居故、

あてしなはえあかて かな ちや せうていおの)かむらわいて

他神不得行。故別遣天迦久神可問 ともうしき。故爾使天迦久神、

名伊都之尾羽張神、是可遣。若亦非此神者、其神之子、建御雷之男神、

此應遣。且其天尾羽張神者、逆塞上天安河之水而、塞道居故、

かれこれの言をばへては、みだにたづねまわらば、またもすべしありや

故爾問其大國主神。今汝子事代主神如此白訖。亦有可白子乎。

これまたもして、またあなただけのみなにかあり、これこそはなし、かくもうしたまうおりても

於是亦白之。亦我子有建御名方神。除此者無也。如此白之間。

そのたのみななにか、ちひまひをたすたすては、たれはたかくては、しほひぬかへもつ

其建御名方神、千引石敬手末而來、言誰來我國而、忍忍如此物言。

しからちからへてせ

然欲爲力競。

かれ、あれまそのみだに、かれのみにをとりなし、またこの物言たりなり

故、我先欲取其御手。故令取其御手者、即取成立氷、亦取成劔刃。

かれこれとせられたり

故爾懼而退居。

これこれの言をばへては、みだにたづねまわらば、またもすべしありや

爾欲取其建御名方神之手、歸而取者、如取若葦、手益手此而投離者、

すなわち

即逃去。故追往而、迫到科野國之洲羽海、將殺時

たけみなななな

建御名方神白。恐し、莫殺我、除此地者、不行他處、

亦不違我父大國主神之命、不違八重事代主神之言、此葦原中國者、

あ

隨天神御子之命獻

あ

故更且還來、問其大國主神。

汝子等事代主神建御名方神二神者、

あまひかみのこの言をばへては、みだにたづねまわらば、またもすべしありや

隨天神御子之命勿違白訖。故汝心奈何。爾答白之。

あまひかみのこの言をばへては、みだにたづねまわらば、またもすべしありや

僕子等二神隨白、僕之不違。此葦原中國者、隨命既獻也。

ただあがすみか、あまひかみのこの言をばへては、みだにたづねまわらば、またもすべしありや

唯僕住所者、如天神御子之天津日繼所知之登陀流天之御巢而、

そ

於底津石根宮柱布斗斯理。於高天原氷木多迦斯理而治賜者、僕者、

ももたらすやそくまたたかりてちもらひん

於百不足八十土門口手隱而侍。亦僕子等百八十神者、即八重事代主神

かみのみまもとなりてしかまひの

爲神之御尾前而仕奉者、違神者非也。如此之白而、乃隱也。

かれもうしたまひ

故隨白而。

す

於出雲國之多藝志之小濱、造天之御舍而、水戸神之孫櫛八玉神爲膳夫、

あ

獻天御饗之時、禊白而、櫛八玉神化鵜、入海底、咋出底之波遣、

あ

作天八十毘良迦而、鎌海布之柄作燧日、以海尊之柄作燧杵而、

ひ

鑽出火云。是我所燧火者、於高天原者、神產巢日御祖命之登陀流

あ

天之新巢之凝烟之八拳垂麻豆燒舉、地下者、於底津石根燒凝而、

たぐひのひびくたぐひのひびく ぐらふのまき ねねのひびくたぐひのひびく ぐらふのまき

拷縄之千尋繩打延、爲釣海人之、口大之尾翼鱸、佐和佐和瀬控依騰而、

あめのまなぐいたまらん

打竹之登遠遠登遠遠瀧、獻天之眞魚昨也。

かたてみかじりのみかたのりまの瀧とて、あしらのなびりへて、たぐひのひびくたぐひのひびく ぐらふのまき

故建御雷神返參上、復奏言向和平葦原中國之状 き。